

2020. 5. 30会員総会（書面）承認

## 2019年度事業のハイライト

世界全体で、2010年からの歩みを振り返り、2021年以降の次の枠組みを検討するのが2020年となっています。そのような背景のなか、国際自然保護連合（IUCN）の日本委員会は加盟団体とともに、日本における10年の振り返りと取りまとめ、2021年から先の活動の芽を育てることができました。

### 主要成果1 想いでつなごう！おりがみアクションータイムカプセル掘り起こし

2010年12月に、COP10にメッセージとともに集まったおりがみを、名古屋市東山動植物園の協力を得て、タイムカプセルにして9年。2019年11月16日に、タイムカプセルをCOP10当時の関係者とともに掘り起こしました。COP10を成功に導いた、松本龍環境大臣（当時）のメッセージも入っており、10年間の歩みを振り返りました。（関連事業1.3）

### 主要成果2 にじゅうまるCOP4@名古屋開催

2013年以降、2年に1度、にじゅうまる宣言団体が一同に会す「にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合」を重ねてきましたが、記念すべき最終の会合である第4回目の会合を、COP10が開かれ名古屋国際会議場で開催。テーマごとに10年を振り返ると同時に、未来へのヒントをつかみました。（関連事業3.3）

### 主要成果3 にじゅうまる10年レビュー完成

2011年10月に発足した、にじゅうまるプロジェクトは宣言数が1000を超えました。国際会議で決まった目標の達成を、10年間見続けていくという事業の成果をまとめる冊子を製作しました。まとめる過程で、その価値観を共有することができました。（関連事業2.1）

### 主要成果4 生物多様性ユースアンバサダー2020始動。

世界とつながりながら、未来を考え行動するユースを育成する事業として、「生物多様性ユースアンバサダー2020」が開始されたことも、IUCN-Jとして大きな一歩となりました。にじゅうまるCOP4に全国からユースが集まり、専門的なNGOとの意見を交わすことで、世代間対話と理解が進み、相互に力と刺激を与え合うことができました。

IUCNは、生物多様性の課題に、これからもっとユースを巻き込もうという4か年計画を検討していますが、IUCN-Jがそれに先駆けて、日本における優良事例を作り上げました。



事



## 事業に関する報告

### 1. IUCNのビジョン・ミッションに共感する団体・個人の増加

#### 1. 1 IUCN-Jサポーター制度の見直し

IUCN-Jのサポーターを定義し、拡大していく仕組みの検討を行う計画であったが、十分な検討の時間が取れなかった。にじゅうまるプロジェクトの後継事業を検討する中で内容を深めていく。

#### 1. 2 ユースの育成

Change Our Next Decade(COND)を運営主体とする生物多様性ユースアンバサダー事業がスタートし、全国各地でユースアンバサダーが活動することとなった。

政策提言セミナー、日本・中国ユースの協働促進WS、地方で活動する団体との環境イベント等の開催支援を行った。

ユース支援事業は、UNDB-J支援事業の委託を受けて実施した。本支援事業は、ダイフク株式会社からのご寄付を中心に運営されている。

国際会議への参加支援実績として、

##### 1. 第1回ポスト2020特別作業部会（8月26日-30日）

矢動丸琴子（千葉大学）・島田ゆり子(明治大学)を派遣し、ユースレポートなどの活動を支援した。

##### 2. 第7回IUCNアジア地域フォーラム（11月6日-8日）

矢動丸琴子（IUCN-J事務局）のユース世代の参加派遣を行った。

##### 3. 第2回ポスト2020特別作業部会（2月24日-29日）

矢動丸琴子(千葉大学)、稲本俊太(早稲田大学)、青田雄太郎(東京大学)を派遣し、ユースレポートなどの活動を支援した。

成果として、国際会議での経験を元にしたアンバサダー事業の誕生やその運営、日本・中国ユースの協働促進が活発となり、国内外でのネットワーク形成に繋がり、COP15に向けたユースとしての自主的な事業が行われることとなった。また、中国NGO主催のCOP15準備イベント（12月昆明開催）に講師として呼ばれるなど、COP15ホスト国との関係構築も行われた。

#### 1. 3 おりがみアクションの実施

東山動植物園のタイムカプセル開封記念イベントを、11月16日（土）にIUCN親善大使のイルカさんをメインゲストに開催した。渡邊綱男会長も参加し、関係企業への感謝状授与なども行った。

掘り起こした折り紙は、1月11-13日の「あいち・なごや生物多様性EXPO」および「にじゅうまるCOP4」でタイムカプセルとともに展示した。また、例年通り、各地でおりがみワークショップを実施した。

### 2. 会員間および海外・他セクターとの交わりの場（プラットフォーム）の創出・増加

## 2. 1 にじゅうまるプロジェクトの推進

電機電子4団体に続き、環境パートナーシップクラブ・EPOCからの講演対応（2月講師渡邊会長、6月道家事務局長）をきっかけに、EPOC加盟各社の生物多様性アクションを取りまとめ、にじゅうまる登録を行うことで調整、登録作業を行った。なお、登録件数は、729団体・1054宣言(2020年3月31日時点)となった。

随時、環境省生物多様性主流化室と協議し、「UNDBせいかりレー」と連動する形で、にじゅうまる宣言が集まる仕組みを検討している。

にじゅうまるプロジェクトの10年の成果とりまとめとして、「にじゅうまる10年レビュー集」を作成。日英翻訳を行い、海外に向けても事例発信が行えるよう制作。

認定連携事業第15・16弾を選定実施。認定連携事業は、2019年度が最終で類型173事業が認定された。

## 2. 2 会員連携のための報告会

会員間での活動報告会などの場を設け、お互いの活動をよく知る機会を設定する。IUCN専門委員会との連携を視野に、専門委員会に関する情報把握や、専門委員会所属委員との交流を行い、連携の可能性を探った。

5月17日 欧中、欧日のポスト2020対話の一環として、EU及びEU加盟国の生物多様性条約担当官との意見交換を実施。

7月4日 IPBES勉強会@環境情報センター 東京大学橋本禅先生を講師に迎え、勉強会を開催、52名が参加した。

9月20日 第1回ポスト2020特別作業部会の報告会@環境情報センター

12月11日 SBSTTA23報告会@環境情報センター

2月13日 ゼロドラフト勉強会(第2回ポスト2020特別作業部会の準備会合を兼ねる)

3月26日 第2回ポスト2020作業部会 合同報告会（ウェブ報告）

## 2. 3 IUCNアジア地域フォーラムへの参加

IUCNアジア地域フォーラムに参加し、日本の会員団体による取り組みやユース事業の発信や、IUCN-WCC2020に向けた情報収集等を行った。中国からの参加者は多く、ネットワークの強化につながったが、韓国からの参加が少なく、日中韓3ヶ国としての協働促進には至らなかった。

出席団体は下記のとおり。

- ラムサール・ネットワーク日本（柏木氏）
- IUCN-J（道家氏、矢動丸氏）
- 環境省（田中氏）
- 外務省（星野氏、前川氏、小林氏）
- 堀江IUCN理事

## 2. 4 国立環境研究所との協働

覚書にかかる具体的な展開はないが、ポスト2020作業部会の準備会合や報告会を共催で実施した。

3. 生物多様性に関する国際枠組みや、生物多様性を越えた持続可能な開発に関する国際枠組みなどに対し、IUCN-J会員からの関与を高める。

3. 1 生物多様性条約関連会合などへの参加を通じた、国際的情報収集・情報発信の実施

1. 第1回ポスト2020特別作業部会（ケニア・ナイロビ、8月26日 - 30日）
2. IUCNアジア地域自然保護フォーラム（パキスタン・イスラマバード、11月7日 - 9日）
3. 第23回生物多様性条約科学技術助言補助機関会合（カナダ・モントリオール、11月25日 - 11月29日）
4. 第2回ポスト2020特別作業部会（イタリア・ローマ、2月24日 - 29日）を中心に、下記の活動を実施した。

- 第1回ポスト2020作業部会（ナイロビ、8月26日-30日）には、道家(NACS-J/IUCN-J)、宮本(UNDB市民ネット)、島田・矢動丸（生物多様性わかものネット、IUCN-J事務局補佐）が、IUCN-J支援で参加した。その他、環境省・外務省・UNDB市民ネットワーク、自然環境研究センター、国立環境研究所（協定団体）が参加した。にじゅうまるプロジェクトウェブで、14件(内5件がユースレポート)の記事を公開した。  
東京での報告会は、9月20日に開催し、40名程度が参加。10月23日に名古屋で開催し、30名程度の参加があった。

この成果を元に、ワイルドライフフォーラム誌（「野生生物と社会」学会発行）、環境と正義（日本環境法律家連盟発行）の寄稿を通じた情報発信も行った。

\*第1回ポスト2020作業部会報告レポート

<http://bd20.jp/category/conference/1st-oewg/>

- IUCNアジア地域フォーラムには、道家、矢動丸(IUCN-J事務局)がIUCN-J支援枠で参加。また、外務省、環境省、ラムサールネットワーク日本も参加した。にじゅうまるプロジェクトウェブで、6件の記事を公開した。

\*IUCNアジア地域フォーラム報告レポート

<http://bd20.jp/category/conference/iucn-arcf2019/>

- SBSTTA23には、道家(NACS-J/IUCN-J)、三石(UNDB市民ネット)が参加。報告会は、12月11日に開催した。にじゅうまるプロジェクトウェブで、12件の記事を公開した。

\*SBSTTA23報告レポート

<http://bd20.jp/category/conference/sbstta23/>

- 第2回ポスト2020作業部会（ローマ、2月24日-2月29日）には、IUCN-J予算から、道家(NACS-J/IUCN-J)、矢動丸(COND/IUCN-J)、稲本(COND)、青田(生物多様性わかものネット)が参加。その他、生物多様性わかものネット、国際湿地保全連合、CIJ、電機・電子4団体、UNDB市民ネット、環境省、外務省が参加予定(事務局把握分)。報告会は、オンライン形

式にて3月26日に開催した。にじゅうまるプロジェクトウェブで、19件(内8件がユースレポート)の記事を公開した。

\*第2回ポスト2020作業部会報告レポート

<http://bd20.jp/category/conference/2nd-oewg/>

### 3. 2 生物多様性条約事務局とのMoU(2011.12月署名)を通じた国際情報発信の実施

CBD-COP15におけるUNDB-DAYの開催に向けて、企画調整を進めている。

### 3. 3 にじゅうまるCOP4の開催

ポスト2020枠組みへの参画・国連生物多様性の10年せいかりレーの一環として、2020年1月12-13日に開催。にじゅうまるプロジェクトの集大成として実施した。

計8回の運営会議を重ね、2020年1月12日、13日に名古屋国際会議場にて開催。のべ250名以上が参加した。2020年1月11日に同会場にて開催されていた「あいち・なごや生物多様性EXP0」とも連動した企画となった。

\*にじゅうまるCOP4報告レポート

<http://bd20.jp/2020-1-17-1/>

<http://bd20.jp/2020-01-17-2/>

<http://bd20.jp/2020-01-17-3/>

## 4 謝辞

2020年度の事業の運営に当たり、下記企業からのご支援をいただいた。

- ・良品計画株式会社
- ・リゾートトラスト株式会社
- ・ブラザー工業株式会社
- ・株式会社シール堂
- ・中越パルプ工業株式会社
- ・株式会社成田製作所
- ・コーヒーズプロジェクト

## 団体としての記録

### 1. 加盟団体

2020年3月31日段階で、国際自然保護連合(IUCN)に加盟している日本の団体は、国家会員1(外務省)、政府機関会員1(環境省)、非政府組織15の計17団体となる。

内、IUCN日本委員会(IUCN-J)加盟団体は、本部がIUCN加盟団体となっている2団体・準会員2団体を合計し、計21団体となる。

2019年に、オリザネットが新たに準会員で加盟を行った。

### 2. 会議開催

IUCN-Jの会員団体・協力団体を中心に行った会合は下記の通り。

- 4月16日 IUCN-J役員会
  - 5月13日 IUCN-J監査会合
  - 5月17日 ポスト2020に関するEU政府代表団との意見交換会
  - 5月23日 IUCN-J運営委員会
  - 6月 6日 IUCN-J会員総会
  - 7月 1日 第1回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 7月22日 第2回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 8月 2日 1st-OEWG準備会合
  - 8月22日 第3回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 9月19日 第4回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 10月11日 IUCN-J運営委員会
  - 10月16日 第5回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 10月30日 IUCN地域フォーラム準備会合
  - 11月22日 第6回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 12月 6日 IUCN-J臨時会員総会
  - 12月19日 第7回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 1月 6日 第8回にじゅうまるCOP4運営会議
  - 1月23日 IUCN-J役員会
  - 2月13日 2nd-OEWG準備会合
  - 2月14日 IUCN-J運営委員会・第9回にじゅうまるCOP4運営会議
- \*通常3月に実施している年度末IUCN-J会員総会はCOVID-19の感染拡大防止のため、次年度に延期

### 3. 外部委員会等への参加

- ・ UNDB-Jへの参画  
委員会(6月20日)、幹事会(10月31日、3月16日(書面))、運営部会(5月28日、10月10日、2月28日(書面))、UNDB-J全国フォーラム(1月11~12日) 担当:道家哲平(日本自然保護協会・IUCN-J事務局長 以下肩書き略)  
\*6月20日の委員会のみ安藤よしの(ラムサールネットワーク日本)が出席
- ・ SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークへの参画  
総会(9月4-5日)、幹事会(10月31日、2月10日) 担当:安藤よしの(ラムサールネットワーク日本)、名取洋司(コンサベーションインターナショナルジャパン)
- ・ IUCNアジア地域委員会 (2019年8月8日~9日) 担当:道家哲平

### 4. 講演依頼等への対応

<講演等>

- ・ 2019年5月26日 造園学会ミニフォーラム「ポスト2020目標から次期生物多様性国家戦略へ」 担当：道家哲平
- ・ 2019年6月19日 EPOC自然共生社会分科会セミナー2019 担当：道家哲平
- ・ 2019年10月6日-8日 台湾出張・講演会「2019 Symposium on Taiwanese Biodiversity Mainstreaming Agenda」 担当：道家哲平

<表彰制度委員依頼>

- ・ 生物多様性アクション大賞2019 審査委員 担当：渡邊綱男（自然環境研究センター/IUCN-J会長、肩書以下略）

<執筆>

- 『環境と正義』（（一社）環境法律家連盟） 担当：道家哲平
- 『ワイルドライフフォーラム』（野生生物と社会学会） 担当：道家哲平
- 『プロGRESS』（（一社）中部産業連盟） 担当：道家哲平
- 『そうだったのかSDGs』（（一社）SDGs市民社会ネットワーク） 担当：道家哲平
- 『国立公園』（（一財）自然公園財団） 担当：道家哲平・矢動丸琴子

5. 発信の強化・組織基盤の強化

15周年記念となるイルカコンサートは7月20日開催した。日本自然保護協会、野生生物保全論研究会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、日本ウミガメ協議会がブース出展を行った。

2020年以降の体制検討については、会員総会等で検討を積み重ねている。

6. 主催・共催・後援・推薦事業

2019年度、IUCN-J主催・共催・後援等を行った取り組みは表1の通り。

表1 主催・共催・後援事業

主催／共催等 事業			
No	日付	事業名	種別（主催／共催／おりがみ）
1	2019/04/21	エコパルなごや おりがみ教室	おりがみ
2	2019/07/04	100万種絶滅ってほんと！？IPBESレポートを学ぶ	主催
3	2019/07/11	生物多様性勉強会 ―自然観察活動から世界の動きまで―	主催
4	2019/08/02	竹紙おりがみイベント	おりがみ
5	2019/08/24	東別院 夏祭り	おりがみ
6	2019/08/31	8/31名古屋科学館タイムカプセル展示&おりがみアクション	おりがみ
7	2019/09/07	東別院 子どもカフェ	おりがみ

8	2019/09/14	2019日本折紙シンポジウムin東京	おりがみ
9	2019/09/14	環境デー名古屋	おりがみ
10	2019/09/20	第1回ポスト2020作業部会(通称:1st OEWG)報告会@東京	主催
11	2019/10/12	東別院 こども広場	おりがみ
12	2019/10/23	第1回ポスト2020作業部会(通称:1st OEWG)報告会@名古屋	主催
13	2019/11/09	タイムカプセル開封イベント ~2010年から2020年につながる想い	おりがみ
14	2019/11/16	タイムカプセル開封イベント@東山動植物園	おりがみ
15	2019/12/11	SBSTTA23報告会@東京	主催
16	2020/1/12-13	第4回にじゅうまるパートナーズ会合	主催
17	2020/02/01	2019年度タイムカプセルプロジェクト作品展示	おりがみ
18	2020/02/13	CBCラジオ「名古屋市だより」	おりがみ
19	2020/02/13	ポスト2020枠組みゼロドラフトの意見交換会	主催
20	2020/03/26	「第2回ポスト2020特別作業部会」の合同報告会	主催
<b>後援/推薦事業</b>			<b>(主催)</b>
1	2019/4-7	湿地のグリーンウェーブ	ラムサールネットワーク日本
2	2020/08/06	SATOYAMAUMIプロジェクト「環境リーダーシップ講座」	コンサベーション・インターナショナル・ジャパン
3	2019/9-	日本自然保護大賞2020	日本自然保護協会
4	2019/10/4	『RED』 いま、消えゆく動物たち	Care&Art nails. c hicco
5	2020/2/1	2020年世界湿地の日記念シンポジウム	日本国際湿地保全連合